

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年8月6日（金）10時30分～11時40分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

大辻室長補佐、新井安全審査官、横山係長、久川係員、高木技術参与

知見主任安全審査官（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

廣岡原子力防災専門官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）

福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室 担当3名

福島第一原子力発電所 担当3名

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
  - 1/2号機排気筒ドレンサンプピット（以下「ピット」という。）の対応について
    - ✓ 2020年5月の排気筒上部への蓋設置以降も継続しているピットへの雨水流入事象について、本年7月14日～16日にかけて、ピットへの流入経路と思われる蓋のないマンホールに対して、新たな蓋の設置等の雨水流入対策を実施したが、同年7月26日～28日の降雨の際にピット内の水位上昇を確認した。
    - ✓ 降雨量に対するピットへの流入量の比率は、蓋の設置後の7月26～27日（降雨量50mm/d、流入量約320L）と蓋の設置前の6月29日（降雨量39mm/d、流入量約305L）で、おおむね同程度であった。
    - ✓ 現在、蓋の設置後のピット内への流入経路の調査方法を検討するとともに、引き続きピット内の水のサンプリング・分析を行っており、今後、蓋の設置前後における放射性物質の濃度の変化についても確認する予定。
  - 2号機原子炉建屋（R/B）北東三角コーナーの連通性悪化と対応について
    - ✓ 2号機R/B南東三角コーナーの滞留水の水位は、これまで滞留水移送ポンプが設置されているトラス室の水位と連動していたが、2021年5月頃より徐々に水位が上昇していることを確認した。
    - ✓ 水位上昇の原因は、配管貫通部の詰まり等で連通性が悪化したことによるものと考えている。
    - ✓ サブドレンの水位（現状はT.P.-650mm）との水位差800mmを確保するため、これに余裕を持ったT.P.-1600mmを上回った段階で、当該エリアの水位を下げるべく、本年7月29日に仮設移送設備により約50m<sup>3</sup>の滞留水をトラス室側に移送した。
    - ✓ 移送後の当該エリアの水位は、T.P.-1900mm程度で安定しており、当面の間、追加移送は不要と考えられるが、今後の傾向を確認した上で、必要に応じて、ポンプの自動化対策等を検討する。
    - ✓ なお、仮設移送設備の設置場所周辺における空間線量率は、約20mSv/hであり、今回の設置作業期間中における個人最大線量は、3.58mSvであった。
  - 汚染水対策スケジュール等について
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
  - 1/2号機排気筒ドレンサンプピットへの雨水流入事象について、現在検討中の

流入経路の調査等を含め、今後の見通しやスケジュールを説明すること。

- 現在津波対策として進めている日本海溝津波対策防潮堤設置工事のうち、本年9月から実施予定の本体構築工事の具体的な内容について、とりまとめり次第説明すること。

等を求めた。

## 6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール（2021年7月29日時点）
- 水処理設備の運転状況，運転計画（2021年7月16日～2021年8月19日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2021年7月16日～2021年8月5日）
- 各エリア別タンク一覧（2021年7月22日時点）
- タンク群毎の放射能濃度実測値（2021年3月31日時点）
- 汚染水等構内溜まり水の状況（2021.7.22時点）
- 建屋内における残水等の状況について
- 1/2号機排気筒ドレンサンプルピットの対応について
- 2号機R/B北東三角コーナーの連通性悪化と対応について